

Ki-67 distribution, α -methylacyl-CoA racemase (AMACR) expression and mucin phenotypes are associated with non-polypoid growth in ulcerative colitis-associated neoplasia

Okano S, Fukata M, Murakami T, Nojiri S, et.al Histopathology. 2024 Oct;85(4):671-685. IF3.9

【背景】潰瘍性大腸炎関連腫瘍 (ulcerative colitis-associated neoplasia : UCAN) は、多巣性に腫瘍形成することが特徴である。散発性腫瘍として内視鏡的に治療された後に異時性に複数の病変が発生することが報告されている。

【目的】潰瘍性大腸炎(UC)患者における粘膜内病変の免疫組織化学的(IHC)特徴および臨床病理学的特性の違いを評価すること。

【対象と方法】UC患者の全結腸切除症例のうち、癌または異形成を伴う粘膜内病変35例、および非UC患者から内視鏡的に切除された散発性腺腫(SA; sporadic adenoma)71例を対象とした。UC病変は、conventional UCAN群(p53変異パターンと正常な β カテニン発現を示す群)と、非conventional UCAN群に分類した。それぞれ、Ki-67陽性細胞の分布、 α -メチルアシル-CoAラセマーゼ(AMACR)の発現、および粘液形質を免疫組織化学的染色で比較し、臨床病理学的特徴を調査した。

【結果】conventional UCAN群および非conventional UCAN群は、左側結腸および直腸に多く発生した。SA病変と比較して、UCAN病変の発症年齢は腺腫に比較して若く、腫瘍陰窩におけるKi-67の基底側発現パターンが多くみられた。conventional UCAN群は非ポリープ状が多くみられ、SA病変よりもAMACRの正常発現頻度が高い傾向にあった。UC病変はそれぞれの免疫染色の結果は不均一であり、複数の病変を持つ患者(n=8)のうち、2人に免疫染色の結果が一致した非conventional UCAN病変が認められた。

【結論】Ki-67の基底分布、AMACRの正常発現、および非腸型粘液形質は、UCANを示唆する特徴的な所見であった。加えて、非ポリープ状の形態もUCANの特徴であった。

Take Home Messages

1. Ki-67の基底分布とAMACRの正常発現は、UCANを特徴付ける所見である。
2. conventional UCANは非ポリープ状の形態を示すことが多い。